駒ヶ根市 自治会フォーラム会議録

**～自治組織の未来を語ろう～**

「駒ヶ根市自治組織の在り方検討会」は、令和5年12月から9回にわたってグループワークによる会議など開催し、地域の課題や未来について議論を重ねてきました。

令和7年度末を目標に、提言書の取りまとめを予定しています。

**期日：令和7年8月3日（土）13時30分～15時45分**

**会場：赤穂公民館**

**参加者：約80名、スタッフ等20名**

**【自治会フォーラム次第】**

**•1　開会　　　（進行）**

**•2　あいさつ　駒ヶ根市長　伊藤祐三**

　皆様こんにちは。駒ヶ根市長の伊藤祐三です。日曜日の午後、こうしてご参加をいただきまして本当にお礼申し上げます。

　今や全国共通の課題と言っても過言ではない、自治組織を今後どうやって盛り立てていくのかという課題に対し、皆さんで知恵を出し合おうという事で、自治組織の在り方検討会は一年半前に発足しました。学生さんから役員経験者の方々まで約３０人の方たちに集まってもらい、今まで９回にわたって様々な形で議論をしていただきました。講演会を開いたり、グループに分かれて議論をされたりという事で、当初想定した以上に様々なご意見、そして熱心なやりとりがあったとお聞きをしております。

　自治組織に関する議論は、「こうすればすべての問題が解決される」、なかなかそういった簡単な話ではありませんし、また、時代によって次々と新たな課題が生まれてくるだろうと思います。

　ただ、議論をそれぞれの皆さんがそれぞれ自分たち事として考えていただき、そして知恵を出し合う。それが、恐らく一番大事な事だと思っています。

　自治組織はなくてはならないものです。

　各地の防災の状況を考えても大きな役割を果たしていることは皆さんもご承知の通りであります。行政としても、自治組織のみなさんと一緒に進んでいくことが大事なことだと思っています。

　これまで多くの皆さんによって有意義なご意見が出されて参りました。本日はその中間報告として、これまでの意見交換の模様をメンバーの方々に披露をしていただきます。

　そして本日お集りの方とご意見を重ねていただく。それを基に更に検討を進めていく。こういう段取りで進めていきたいと考えております。

　松本大学の白戸先生にはアドバイザーとして当初からお力をいただいてまいりました。本日もまとめ役、ファシリテーターをお願いいたします。

　皆さんも是非、忌憚のないご意見を出していただき、この会が次につながることを期待しております。私も、皆さんのご意見を充分拝聴をして参りたいと思います。

　本日は長時間となりますがどうぞよろしくお願い申し上げます。

**自治会フォーラムの進め方　（事務局）**

　本日は、今まで９回の在り方検討会の議論を振り返り、皆様の率直なご意見やアイディアを聞かせいただく機会として開催しています。

　受付で配布したアンケートの問１「在り方検討会からの提言を受けて、自分の自治会でできることがありますか。」問１はこの後のパネルディスカッションを聞ききながら記載いただき、皆様の目線から自由に書いてください。記入内容は、その後のグループディスカッションの意見交換の材料としてご活用ください。

　問２では自治組織や在り方検討会に対してご意見やご提案を自由にお答えいただきます。こちらはフォーラム終了後でも構いません。お気軽にご記載ください。終了後に回収・集約し今後の検討会の中で議論をさせていただきます。

　フォーラムの流れですが、この後パネルディスカッションを行います。その後、皆様に９人ずつのグループに分かれて、グループディスカッションを行っていただきます。時間は６０分です。進め方は後ほどご案内します。

　ディスカッションの後、ホールにお集まりいただき、それぞれのグループ発表を行います。グループの中で発表者を決めていただき、登壇の上発表をしていただきます。発表は端的にお願いします。

　その後、松本大学の白戸洋教授からご好評をいただき、最後に市長からコメントを述べさせていただき終了の流れです。終了は概ね１５時３０分を予定しています。

　本日の会はYOUTUBEでも配信しています。収録したものを後日編集してご覧をいただけるよう配信して参ります。

**•3　これまでの経過説明　　　　　検討会副座長　岡田敦子さん**

　みなさんこんにちは。本日は「自治会フォーラム」にご参加いただき、ありがとうございます。

　これから5分ほどお時間をいただいて、私たちが行ってきた「自治組織の在り方検討会」全8回の議論の流れとその本質的な変化について、簡単にご紹介させていただきます。

　まず初めに、このフォーラムの目的です。私たちは、自治会の未来について、市民の皆さんと一緒に考えるきっかけを作りたいと考えています。

　また、約2年にわたる会議の中で、どんな議論がされ、どんな変化があったのかをわかりやすく伝えることも大切にしています。

　さて、議論の全体の流れですが、大きく分けて3つの段階に分かれます。

　1つ目は「合理性の追求」。

　2つ目は「人とのつながりの重視」。

　そして最後が「伴走型支援」という具体的なアイデアの提案です。

　最初の段階（第1〜3回）では、市民アンケートをもとに、自治会の「スリム化」や「役員の負担軽減」など、合理性・効率性の視点で議論が進みました。特に20〜40代の若い世代からは、「加入のメリット・デメリットを明確にしてほしい」「役員の負担が重い」「会費が高い」といった声が多く寄せられました。

　この流れが大きく変わったのが、第2回の白戸教授の講演会でした。ここで出されたのが「合理性だけを追求すると、活動がどんどん縮小して、地域の魅力も、人とのつながりも失ってしまう」という警鐘でした。このあたりが、大きな「転換点」になりました。

　以降の中期段階（第4〜5回）では、「つながり」や「顔の見える関係性」が議論の中心になっていきます。安心感、納得感、充足感。これらの“目に見えないけれど大切な価値”が、地域活動にとってとても重要だということが改めて共有されました。

　そして最終段階（第6〜8回）では、「伴走型支援」という考え方が具体的に出てきました。たとえば――

- 地域のルールや歴史をまとめた「地域の教科書」の作成

- QRコードやウェブでの情報発信

- 野菜の収穫体験やそば打ちなど、「楽しい」イベントを通じた自然なつながりづくり

こうした取り組みが、自治会の価値を「作業」から「参加してよかった」に変えていく力になると感じています。

　最後に、この議論を通じて見えてきたこれからの自治会の姿を少しだけ。

- 会費や活動の内容が透明で分かりやすいこと

- 顔の見える関係性を大切にした、あたたかいつながりのある地域

- 一方的ではなく、共に創っていく「共創のコミュニティ」

　これらが、自治会が次の世代につながっていくためのカギになると私たちは考えています。

　今日のフォーラムでは、この提案が「自分の自治会だったらどうだろう？」という目線で、皆さんの自由なアイデアや意見を出し合っていただければ嬉しいです。

　ご静聴ありがとうございました。

**•4　パネルディスカッション　　　ファシリテーター　白戸 洋 教授**

**【ファシリテーター プロフィール】**

**白戸 洋（しらと ひろし）教授**

**松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 教授**

**神奈川県横浜市出身。大学卒業後、政府開発援助（ODA）や国際機関の専門家として、アジアやアフリカにおける地域開発・コミュニティ開発事業に約10年間従事。平成3年より長野県松本市に移り、信州の村づくりを学ぶ中で、若者との交流や教育の意義に触れ、教育・研究の道へ。現在は松本大学で、地域政策・住民参加・NPOを専門に、地域づくりの実践と支援に取り組んでいる。**

**学生と共に地域課題に取り組む授業・実践活動を多数行い、県内各地の自治体や住民組織との協働経験も豊富。朝日村公民館の在り方検討委員会委員長、山形村複合施設整備推進委員会委員などを歴任し、地域の自立と共創を支える姿勢が多くの地域で信頼されている。**

**【パネリスト】**

**森岡 強 さん（元高校教諭／町一区元区長／検討会座長）**

**林 英之さん（南割区推薦委員／若手検討会委員）**

**加治木 今さん（町四区元相談役／元市議会議長／ボーイスカウト・日赤奉仕団）**

**倉田 正清さん（前福岡区長／前区長会長／天竜川ゆめ会議事務局）**

**白戸洋教授**

　ご紹介いただいた白戸です。３０分という短い時間ですが、この後のグループディスカッションの中で、より良い議論ができるように、色々な検討会の議論の中身や、議論の中で委員の皆さんがお考えになったかなどを率直に述べていただくのがパネルディスカッションの目的です。何か結論を出すという事ではなくて、後のグループディスカッションが盛り上がるような材料を提供すると位置づけられています。

　早速始めさせていただきます。今回４人のパネリストには、検討会の振り返りと、その中や以前からかもしれないが、自治組織に関して課題や問題意識をお持ちになっている現状の問題と、後半は、じゃあこれからどうするかというご意見をいただくという中身になります。限られた時間、忌憚のないご意見をいただければと思います。それでは林さんからお願いします。

**林英之委員**

　南割の林と申します。検討会の話の中で私が感じたことですが、自治会に参加している方もそうですが、未加入の方とも話をしました。

　その中で感じたことは、加入している方も、そうでない方もゴミの問題や防災の問題という点では、みんなでまとまっていることは必要であるという事を感じました。自分一人ではどうにもならない者に対してどうしていくのか。やはり協力することが必要である。

　今の自治会の中で、すべてが今の時代にあっているか分からないので、共通の課題としてそこからもう一度考え直す必要があると思います。若い世代も含めて、ただ無駄なものではなく、自分たちの生活の基盤としていくことが必要なのではないかという事が見えて参りました。

　自分たちの世代、私は40代ですが、その世代は見るからに少ない。30代、40代が自分たちのこととして考えているのか。（考える材料を）どうやって発信するか。いずれ自分たちが、区長や副区長などの役員を務める時に、今の形をそのまま受け継ぐことができるのか。そこを自分たちのこととして考えることが課題だと思っています。

　私はいろいろな組織、団体に出ることがあります。それらの活動は、事務局体制があるから何とかなっているのだと思います。

　今の区長さんは、集会所のことをあげても、電話で空を調べ、鍵を取りに行くところから始まって、事務方まですべて務めている。これでは区長さんの役割はどう見ても重すぎると思います。

　事務局体制をとり、手当を払ったとしても、役員の負担を軽くし、情報伝達や、区へのつなぎなど、誰でも役員を務められるようにできるのではないかと思います。

　それぞれの地域性や歴史の違い、制度の違いもあるので簡単にはいかないかもしれません。そうした（事務局体制を取るなどの方策の）ことを考える必要があるし、そうした時代が来ていると思います。

　今までどおりではなく、より現状に合ったものをみんなで考えていくという事が必要だと思いますし、そういった議論をしてきました。

**白戸洋教授**

　加治木さんですが、元市議会議長で町四区の相談役、ボーイスカウトや日赤奉仕団でご活躍されています。地域の多様な活動に携わり、女性の視点から貴重なご意見をお願いします。

**加治木今委員**

　よろしくお願いします。最初に、あり方検討会の議論で印象に残っていることや考えさせられた点ですが、3つ挙げさせていただきます。

　検討会の委員が大変に多方面から参加していることで、様々な意見が最初は飛び交いました。その中で自治会に入っていない委員から「自治会に入るメリットもわからない、また、困っていることもない。」と堂々と意見が出されました。それに対して、災害のときはどうするのかなと感じていました。もう一つの意見として「日赤や社協の募金や、神社の寄付など、お金に関する負担や目的について改めて見直す必要性があるのではないか」という意見がありました。これも、よく考えると、自治会に入っていない方は全部払わなくて済みます。私達の生活の中には欠かせない、そういうお金に対して、これからどうしていくのかという目的を改めてはっきりすることが必要ではないかと感じました。

　また、全部の区の方が代表で集まっているため、区によって状況が違います。区が持っている財産やその維持管理、区費、福祉関連の取り組みにそれぞれ特徴があって、同じ区がないことがよく分かりました。そこに区長さんたちのご苦労があり、いろいろな喜びもあるということを感じました。

　これからの課題や変化、あるいは懸念についてです。私はこれから世代の交代をどう行っていくのかが、今の大きな課題だと思っております。考え方や働き方の変化が大きく、その上、コロナ禍で様々な事業や行事が休止したことによって、大きな変化や見直しの機運が生まれています。

　地域のことに取り組むことができる年代も、定年の延長などで、年齢が上がってきています。将来のためには、いかに若い方の考えを取り入れていくかが重要になります。これは当たり前のことだが、大変難しいことです。今まで地域の自治を担ってきたのと同じように継承していくのか。あるいは変えていくか。どんな形で引き継いでいくかを話し合うことに今こそ取り組むときではないかと思います。

　昨日、嬉しいことがありました。町四区では大御食神社の祭典の青年団の発会式がありました。伝統のお祭りを力を合わせて取り組むことで地域の絆を強化する礎としたいという挨拶がありました。私が驚いたのは、新しい協力体制を作りたいという声が生まれてきていることです。本当に初めての一歩ですが、協力したいと思います。世代の交代は、青年に熟年世代がどのように寄り添っていくのかがポイントになるということを感じました。

**白戸洋教授**

　ありがとうございました。続いて森岡強さんですが、町一区の区長をご経験で、高校の教員を通じ地域の教育に携わっていらっしゃいました。検討会の座長を務めていただいております。それではお願いします。

**森岡強委員**

　先程の会議の経過説明にもありましたが、中期の4回や5回の会議でつながりや、顔の見える関係性や安心感といった、目に見えないけれども大切な価値が地域にとって重要だということを、会議を通じて改めて考えさせられています。

　ちょうど一ヶ月前にこんな事がありました。夜の2時ころ家内に起こされて、何かと思ったら、水道の漏れているような音が何処かから聞こえてきています。自宅の中の水道を見て回りましたが、見つかりません。何処かから音だけが聞こえてきます。そこで、玄関から裏に回ってみました。背中合わせにあるお宅の庭の水道ホースが、外れて、もう一件向こう側の家の庭にすごい勢いで水がかかっていました。夜中の2時のことです。どうしようかと考えてしまいます。このときに、水道が吹き出しているお宅のご主人の顔がすぐに浮かびました。朝までこの状態だと、大変だろうなと考えて、パジャマ姿のまま、その家の玄関に行き、インターフォンを鳴らしました。夜中ですので、不審者かと思われたと思います。どうしましたかと出てきてくださいました。裏の森岡ですけれどもということで、水道の水が漏れていることをお伝えしました。水道の元栓を一緒に締めて、そのことは済んだということがありました。

　夜中に水漏れを発見したときに、ぱっとお隣のご主人の顔が思い浮かんだという、そういう関係性は、隣組の中で皆さんが意識を持っていれば、何かあっても、なんとかなっていくんだろうなと思いました。

　もし、ここではないところで、夜中の2時に水漏れを見つけても、どうしただろうかと考えました。やはり、警察に連絡して来てもらったほうがいいかなとか。知らない家なら、不審者扱いされるだろうなとか。

　そういった、何かあったときに声を掛け合える関係性は、どうでしょうか、新しく入られる方が増えたり、これまでお住まいだった方がいなくなることもあります。だんだん関係性が薄らいでいく。

　今回の事があったお宅とは、最近まで同じ隣組でお付き合いしていました。隣組の再編があり、今は頻繁にはお付き合いはないけれども、何かあったときには、声を掛け合える関係性は続けられていました。こういう関係は、なかなかすぐには築くことができません。河川清掃や、防災訓練と言った細かい事の中で築かれるものだと思います。

　私が区長を務めた中で、町内の再編をしました。10年前は7つの町内ありましたが、5つに再編を行いました。その3年後に、やはりこれ以上は持たないという声が上がり、3年ほどかけて再編の第2弾を行い、現在は4つの町内になっています。5町内から4町内に再編したときにも、この先もう一度変えなければならないことも考えられたので、必要に応じて再編することを附則として設けました。

　もう10年先には4町内を3町内にする時代が来るかもしれないと私の中では考えています。それだけ、区内の人数が大きく減ってしまっています。20年前480戸あった世帯が、今は、280戸を切っています。減少率35％です。

　20年後にはもしかすると試算では180戸となってしまい、そうすると区を存続することはできないだろうと思います。これからは、駒ヶ根市全体で、区の行政をどうしていくかを考えていかないといけない。町一区は16区の中で2番目に小さい区です。小さい区であれば、苦しい状況が間もなくやってくることが予想される状況であり、私の中の課題と捉えています。

**白戸洋教授**

　ありがとうございました。それでは最後に、倉田正清さんです。

　天竜川ゆめ会議の事務局を長年務められています。昨年度は駒ヶ根市区長会長もお勤めでした。

**倉田正清委員**

　天竜川ゆめ会議は先週アレチウリの駆除をやっております。いろいろな環境活動を行う団体です。

　ちょうど来月には、友好都市の磐田市で、アカウミガメの放流を行う事業を予定しています。子どもたちを連れて行って、環境教育を兼ねてウミガメの放流をする活動をしています。市の中では、水防協力団体ということで、防災についての広報のお手伝いをしています。

　昨年区長会長を務めました。その中で、市に対して区長会から要望書を提出しました。

　先ほどは、検討会の報告の流れにもありましたが、区長や他の役員の方々の業務など、負担が大きいからなんとかしてほしいということがあります。会費を集めることや、給付金を集めるというような色々な負担を減らすことに加え、公共的な施設などの環境整備に関わる区の負担についても要望をあげました。

　在り方検討会もそうですが、市でいろんな審議会などに区長会に割り当てて委員などの人を出してくれというものです。住民の代表として、呼ばれているのだと思いますが、委員の任期が3年もあるのに、毎年交代をする区長から交代で委員を選出することは、筋が違うのではないかと考えています。そういったことを市では会の目的をあまり意識せずに、住民代表で区長会の代表を当てれば良いと思っているのは、安易ではないかと思います。そんなことを問題 にさせてもらいました。

　それから公共的な施設などの環境整備についてです。

　これから先、いろいろな課題が出てくると思います。特に公共施設は、例えば公園やこのホールのような施設や、他にも道路や河川も公共施設に入ります。そういう施設の、草刈りなどの管理を今後どうするのか課題があると考えています。

　公園は区など近隣の自治会が管理しているところが多くあります。道路敷の管理は、例えば隣接する土地の地主さんが（自らの土地の管理を延長して）ボランティアでやっていることが多く見られます。

　これから人口が少なくなって、草刈りもできないようになった時にどうなるでしょうか。現に今でも、例えば中沢区の山には、管理が行き届かずジャングルの様になってしまっている道路があります。

　この先駒ヶ根市全体がその様になってしまうのではないかと心配されます。人口が減ってきていることで、先ほど触れた区の役員、自治会の役員についてもなり手不足が心配されています。PTAの役員を決めるのは、今はくじ引きかじゃんけんだそうです。元々親の数が減ってきて子供の数も減ってきているからです。

　どんどん人口が減るということは、役員の成り手もどんどん減ってくるということになります。そういったことを踏まえて、これからどうするかということを今、考えていかないといけないと思います。

　人口はまだまだ多いかもしれませんが、ここに集まってきていただいた皆さんの年齢を考えてみるとどうでしょうか。若い方がどの位いるでしょうか。「今の自治組織をどうやって若い世代に引き継いでいくか」ということが一番肝心だと思います。

　70歳定年という時代になっています。夫婦共稼ぎの状態だと、若い人達はいつ地域への参加ができるでしょうか。どういう風に誘い出して、意識を変えてもらえるか。そういうことが一番肝要なことではないかと思います。

　この検討会に関して、私は前任者の交代で途中から入りましたので、検討会の内容については余り承知をしておりませんが、区長会の代表として、そんな話を市の当局にお願いしてきました。

　皆さんには、これから若い人たちにどういう風に自治組織を渡していくかということを考えていただけたらと思っています。以上です。

**白戸洋教授**

　はい、ありがとうございました。検討会の振り換えと課題と地域の課題をお話ししていただきました。あと10分ございます。1人 2分半ずつです。言い足りなかったことに加えて、今後に期待すること、特にグループディスカッションで皆さんに色々議論していただくのに、是非何か具体的に、「子育て」のような話題を提供していただければと思います。順番は先程の順番でよろしいでしょうか。それでは、林さんからお願いします。

**林英之委員**

　はい。もう余り若くないですけれども若い世代ということで、私も消防団に入ってずっとこれまで活動してきました。消防団も若い世代が集まる場ではあります。それでも皆さん使命を持って消防団の皆さんは「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持って活動しています。しかし、実際には、周りの様子もそうですが、勧誘しようと人を増やすことには大変苦労されているとお聞きします。消防団も1つの人材育成の場です。

　ともすると、家族の方が「消防団なんて出なくていい」と言われることがあります。そういうふうではなく、ご家族からも、是非、消防団で地域に貢献するようにという、力強い応援が非常に大事になってくると思います。

　消防団の若い人たちは、自分たちが自然と地域を背負っていく、親しんでいく中で自治組織も含めた地域の在り方を仲間と共に少しずつ考えていくことができます。。その様な人材育成の仕組みや組織というのは非常に重要だと思います。

　なかなか大変ですけども、若い人たちが皆で楽しみながらお互いの顔を合わせられる環境や、集まる仕組みを一度しっかり作っていくことが今後につながることであり、非常に重要だと感じます。

　実際、在り方検討会の中でも、お祭りは大変なこともあるけども、地域を繋ぐという意味では非常に重要だということが出ておりました。消防団やお祭りなど、それぞれの実情と課題がありますが、楽しむことと繋がること。それを今一度考え、大切にしていくきっかけになれば良いなと思います。

　また、先ほど事務局体制の構築を是非お願いしたいと発言しました。区長さんは1年で交代してしまいます。1年経ってようやく解ってきたところで終わってしまうところを、いかに連続性を持たせるか。事務局を設けて、通年の計画的な資料により、行事毎に慌て取り組むのではなく、余裕を持って職務に従事する事ができます。

　安心して事務的なものをまず繋ぐ。それができるからこそ他の事へも考えが回る。そうした形を取っていくようなことも可能ではないかと思います。

　業務には様々な課題があると思いますので、今まで取り組む事ができなかったこともたくさんできる様になると思います。

　そういう道筋を地域の皆さんと一緒に考える事ができたらいいなと思います。以上です。

**加治木今委員**

　私は、町４区に住んでいますが、私が子育てをしていた時代には、地域の皆さんと一緒に子育てをしておりました。子供たちも、地域の同年代の子供達と一緒に遊んで育ってきて、地域に自分がいるということが当たり前のような気がしていました。時が経ち、今は少子化が本当に進んでいます。私の家の周りにも小さい子はほとんどいません。理想としては、地域の中で子供を育てることができれば良いのですが、今はそれができない状況になってしまいました。

　私は現在、地域で介護予防サロンに携わっています。近所の高齢の方たちが皆さん歩いてきて、週に1回定期的に顔を合わせる活動に取り組んでいます。サロンは楽しんで参加いただける安心を得られる場です。家にいても1日喋らずにいることもあるけれど、サロンに来ると馴染みの顔と喋れるので来るんだよと言ってもらっています。活動をしていてとても嬉しくなります。

　このサロンの事業が始まったのは、行政からの呼びかけがきっかけでした。行政が旗ふり役になり、地域が動いた事業です。

　そういう事業は、長続きしないこともあります。でも、この事業が続いているのはどうしてでしょうか。

　行政が言い始めたことだけれど、事業の意味を携わった人がそれぞれ理解して、自ずとやりたいという気持ちになれたということではないかと思います。

　この事業を「自分ごと」として「将来、自分たちが困るんじゃないか」「サロンのような場所が必要ではないか」と思ったのではないでしょうか。だからたくさんの協力者が集まっているのだと思います。

　私は、事業がうまく行くときのポイントは、行政との関係性にあるのではないかと思っています。

　大事なことは、市役所と自治組織が単なる依頼先と考えるだけではなく、共に地域の未来を作っていくパートナーとして捉え、お互いにそれを意識すること。事あるごとにそれを確認しながら進めていくことだと思います。

　行政からの依頼が本当に意味のあるものなのか、目的を考えながら動いていくことが大事です。そうすると良い地域につながっていくのではないかと思います。

　住民同士の活動としての話ですが、昨年、輪島の被災地に支援に行きました。

　被災者の方からお聞きして印象に残っていることは、仮設住宅でも「近所で知っている人がお隣同士側にいてくれるから安心できるんだよ」と言い合っていたことでした。

　ご近所というのは、いざという時に頼りになるし、大切なあたたかいものなんだということを改めて実感しました。

　それでは、私たちは今どうしたらいいのでしょうか。

　何か大きな力によって、地域を変えようとか、「これが必要だ」といくら口で言っても、まわりが動いてくれるような時代ではないと思います。

　是非地域の中から始めて、気軽に小さな集まりをいくつもいくつもたくさん作って、その集まりがやがて手を繋いでいくことで、その地域らしいまとまりができていくのが良いのではないかと思います。

　先ほどお祭りの話をしました。お祭りは顔を合わせる機会になります。この機会を大切にして、まずは第1歩として、住民の皆さんが本当に小さくてもあたたかい集まりが数多くできることが地域の芽を育てていくということではないかと考えております。

　最後に、是非今回のフォーラムのグループワークで皆さんに検討していただきたいのが、先ほどのスライドにもあった「地域の教科書」です。

　区長さんたちが１年交代で区長になった時に、毎年ゼロからスタートしています。そうではなく、地域にこれだけのものがあるということを、何か見える化できるもの、「教科書」があるといいと思います。これまでの検討会の議論でも出ておりました。そういうことに対するご意見をいただければと思っております。以上です。

**白戸洋教授**

ありがとうございます。森岡さんお願いします。

**森岡強委員**

　2 つほど申し上げたいことがあります。

　令和３年度に区長を務めた時のことです。任期中に、いくつか人を選ぶ場面がありました。役をお願いするということです。区長の1番の仕事は次の区長を探すことだというのです。私が区長を引き受けて、しばらく経ってから前年の区長さんから聞かされました。その年はお祭り年番の区長を選ぶ時だったので、前任者の言うとおり、本当に苦労しました。

　他にも、消防団から依頼を受けて、団員の勧誘をしたこともあります。1月、2月の寒い時期に、消防団員と一緒に、各戸を訪問して、何回もお願いしてまわりました。

　民生児童委員を探してまわった時には、本当にもう最後の最後までどうしようと悩みました。私がいる町一区は、小さい地域なので、その中で人を選ぶということは本当に苦労します。私が胃が痛むような思いをしたものですから、なんとかこういうものを、もっと楽にする事はできないか考えました。

　私の区長任期の後も、せめて力になりたいと思い、自分の後の区長さんたちとは過去5年の区長経験者の皆さんと一緒になって人選に回ることに取り組みました。皆さんで分担してなんとか人選ができたことが蘇ってきます。そういった人にお願いするということの難しさがあります。

　先ほど加治木さんから話がありましたが、私も地域で高齢者サロンに関わっております。サロンに来てくださる方の平均年齢は多分82歳から83歳くらいです。上は93歳、94歳です。若い方はあまりいません。77、78歳の方が若干いるくらいです。携わっているスタッフは、主に区長経験の方々で70歳前後の方で、6〜7人でなんとか運営してます。

　今の年齢構成で考えると、10年後、私たちがサロンに通う時には、スタッフを担ってくれる人が果たしているのか疑問に思ったりします。

　とりあえず今来いただいてる方が、喜んで帰っていただけるという、目の前の1回1回を、大事にしていくしかないのかなと思っています。それでも先のことを何となく不安に感じながら活動をしています。以上です。

**倉田正清委員**

　先日のあのカムチャツカ沖の地震があった時に、津波で、海の近くの人たちは避難をしました。隣近所は顔が分かりますが、特に外国人や隣組に入ってない方々は、どうしているのかという話題がニュースで取り上げられていました。

　市内でもこれから8月の末に地震防災訓練が予定されており、安否確認の訓練をやる予定になっています。当然外国人の方もいますし、アパートに住んでいるけれど住民登録をしてない人もいますので、そこまで含めると、人口よりも多い方が、駒ヶ根市に住んでいるという状況だと思います。

　それは子供たちに関わることですが、お祭りの時に子供たちにお菓子を配る事があります。その時に隣組に入ってない子たちだから配らないということはできるでしょうか。そういう事が結構悩みだったりします。

　市は、市民の安全ということで、トータルで3万数千人を対象に安否確認するということになりますが、自主防災会の範囲はもっと狭いので、実際には6割7割になるかどうかだと思います。そういったところでどうするかというのが課題だと思います。

　地震は突発的に起きます。確率としてはどこかで大きな地震が起きるということです。これから考えていかなければいけないのは、お互いにコミュニケーションが取れる、顔の見える間柄を作るということが、自治組織もそうですし、社会生活を営む人間として、大事なことではないかと思います。

　DXが進み、デジタルやリモートで、安全確認や情報伝達は、確かに可能ですし楽になると思います。

　しかし、face to faceでお互いに顔の見える関係を作っていかないと、これから人口減少の状況に加えて、お互い隣に住んでいる人の顔も分からないという状況では非常に良くないと思います。そんなことも自治組織の中で少しずつ、努力をして改善していかなければならないだろうと思います。以上です。

**白戸洋教授**

　はい、ありがとうございました。以上で、皆さんからのコメントを出していただきました。

　普通、こういう提言を行う委員会をやる時には、パブリックコメントなどの形で市民の皆さんに報告をしたりして意見を聞く事が多いです。一通りお聞きしましたというだけで終わりになりがちです。

　今回このフォーラムでは、そうではなくて、もう一歩進んで、皆さんに一緒に考えていただき、実際に、実践していただきたいなと考えております。

　この後のグループディスカッションでは、そういうようなお気持ちで是非関わっていただければと思います。

　先ほども申し上げましたが、課題となっている事は「自治組織をどうするか」ということですが、それ以上に、先ずは「自分が身近な地域をどうしたいのか」身近に引き寄せて考えていただきたいと思います。

　その中で「課題は何だろうか」とか、あるいは「自治組織だからできることはないか」とか、あるいは「自治組織の可能性があるのではないか」とか、あるいは「そのためには自治組織がどんな風にあった方がいいのか」などのように議論していただければと思います。

　少し時間が伸びてしまいました。以上でパネルディスカッションを終わりにしたいと思います。皆さんありがとうございました。

**[拍手]**

**グループディスカッションの進め方:事務局**

　進め方につきましては、お手元のプログラムの裏面に記載がされております。ご覧になりながらお聞きください。

　この後10グループに分かれて、在り方検討会からの提言を踏まえました意見交換を行っていただきます。名札に記載されております丸印つきの番号が割り振られた、グループの番号になっております。

　まず初めに、簡単に自己紹介をしてください。その後、進行役、書記、タイムキーパー、発表者を決めます。発表者につきましては15分後に事務局が確認をさせていただきます。その後、話し合いの中で出た意見を付箋に書いて模造紙に貼り、意見をグループ化して見出しをつける流れです。

　最後の10 分で発表用の模造紙へ内容をまとめてください。プログラム裏面にグループディスカッションの会場配置を記載しました。番号の会場にご移動いただき、話し合いを始めてください。

**グループ発表**

**グループ1**

　最初に「自治会なんか意味がないのではないか」といった、私の過激な発言から話が始まりました。私としては、大きな改革をしたいというイメージでいました。周りの先輩方からいろんな意見をいただくことになりました。

　いきなり「改革」というように大きなことから考えるのではなく、1個1個できることから少しずつ変えていく「改善」という考え方で進めることで、うまく進むのではないかと、色々ご助言いただきました。そして、区長が1年で変わってしまうことが、色々な事を改善していくという考えが進まない原因ではないか、という意見が出ました。構造から、今回も貼ってますが、事務局を設けて区長の仕事を減らし、情報を何年も蓄積して区政を進めていく仕組みにを作っていくことが非常に重要で、これから新しい組織へ改善していく仕組み作りが重要なことなのではないかということで話がまとまりました。 以上です。

**グループ2**

　グループ 2では、本来、議論は自分の区では何ができるのかみたいなところを持っていかなければいけなかったのですが、どんな問題があるのかという議論が進みました。

　とにかく自治会の抱えている問題が多すぎるということでした。区長の役割が多すぎて、やることが大変で、区によっては補助する人の体制もあまりできてないところは大変だということです。今年は特に民生児童委員の改選期で、新しい民生委員を選ぶ、人材をさがすのが大変だったということが出てきました。

　区や自治会を抜けることについて検討してる区が実はいくつもありました。区の中の、自治組織だったり隣組だったり個人だったり色々なレベルがありますが、実際に区や自治会に入ってることのメリットが感じられないような人の中には、高齢化を理由に抜ける方もいるし、寄付金の問題がこじれて抜けてしまう人がいたところもありました。

費用負担、お金の関係で言うと、区によって色々差があると思います。入会金や年度の区費がとても多く徴収するところがあって、それはそれで大変だということです。組織を抜ける時も特に返してくれないのはなぜなんだろうという疑問を抱いてる人もいらっしゃいました。

そういうような問題を抱えた状況から、コロナ禍が終わったことをきっかけに、

今までと違うやり方を試行してるところもあります。前のままリスタートで継承してるとこもあると思います。ちょうどいい見直しのタイミングではないかと思います。以上です。

**グループ3**

　3グループは、区長さん、副区長さん、会計さん、それから特徴的だったのは、移住者の方がいらっしゃいました。そういった方の貴重な意見もお聞きすることができました。

　これから区は、移住者は元より、先程も出ていた外国人の方など、住民の多様性に対応していくことが、非常に大きな課題になると感じました。

　まず出てきたのは区の役員の負担軽減で、これがマストだということです。とにかく役員さんをはじめとして、行政の下受けというか（ちょっと私もなんですけども）行政からの仕事が多すぎてしまって、なかなか新しい企画ができないと、これ非常に歯がゆいというご意見がございました。もっと市役所は、がっつり関わって欲しいという意見が出ておりました。

　役員負担の改善する方法として、市の再任用職員を区に派遣して、様々な事業や雑用などの事務に関わっていただけたらという意見がありました。

　あるいは、交付金を増やして、何年か事務処理に携わる専従的な職員が雇える環境を整えるという意見がありました。これだと市役所は財政負担が増えるんじゃないかという感じがしているところです。

　自治会や区の未加入者、自治会の未加入者の参加が少ないということで、これをどう増やしていくかという方策にもっていったらいいかということであります。ここら辺はなかなか難しいところもあります。企画をする区長さんの力量にかかっているのかなと思います。

　やはりメリット・デメリットを明確にして、しっかり若い人から年寄りまで参加できるような、そんな自治会活動ができたらないかなというところです。

　こちら側の「教科書作り」は大切ということでございました。これはやはり移住者の方が2名いらっしゃったので色々な意見が出ました。

　区のやってる仕事、区の仕事なんだか、自治会の仕事なんだか、個人の仕事なんだか、さっぱり区別がつかないとの事です。

　それから、外から見ると区とか自治会とかそういうところは、非常に閉鎖的に感じるというご意見も出てきております。

　従ってそういった教科書のようなガイドブックがないので全体が見えないために、何に参加してどう参画していいのか良く分からない。神社のことも、宗教上の問題だからなのか、参加していいのか分からない。また、お金の問題もからんできますので、ちょっと良く分からない、河川清掃もゴミ拾いだけではないかといった話も出ていました。

　色々様々出ましたので、こういった移住者の方、外国人の方にも優しい自治組織づくりは、非常に丁寧なガイドブック、教科書づくりが必要であるというご意見が出ておりました。

　そんなことでまとめさせてください。どうぞよろしくお願いいたします。

**グループ4**

1分って言ってましたけど1分じゃ足りないという感じです。

　大体3つぐらい分かれる形になりました。

　まず区の施策、人の繋がり、そして今日のこの自治会フォーラムということです。

　まず自治会フォーラムも8回もやられるということで、これから何回やるのかわかりませんが、結果はいつ頃出すのかということがでました。

　あと人の繋がりの件ですけれども、やはりあのコロナで、ばっさりと繋がりが切れたということがあります。区の施策にもからんできます。区長会があると思いますが、区長さん同士の横のつながり、こちらはこんな感じでやっていて、こちらではこんな感じでやっていますという。役員の決め方については、こんな方法でやってますよという、いいところが、あるとしたら、そういうものの、良いとこ取りをお互いにしていけば良いのではないかという意見がありました。

　特に若い人たちの参画について、いろんなところに、出てもらう方策です。今年も8月15日に二十歳を祝う会があると思いますが、特に消防団の成り手が少ないということがあります。消防団にもちょっと何某か出てもらってお話をさせてもらえばいいと思います。

　もう1 個は見える化です。特に地域の行事をやっているということです。年度初めには広報を出して、その時々にならないと、みんな忘れてしまうということがありますので、見える化が進んだ方がいいかと思います。区の仕事が本当に山ほどあって、なかなか目が届かないこともあり、なんとか進めてるという方が本当に多いと思います。この中にも事務局があったらいいという提案がありました。以上です。

**グループ5**

　５グループでは大きくお話しして、今の様子がどうなってるかとこういうことを書かせていただきました。

　まず出てきたのは役員のなり手がいないことです。住民の中で、各ご家庭の中で、世代交代、この区会との関わりに関して世代交代が、なかなか進んでいないということです。そういったことから、当事者意識と、消防団の様に自分たちの地域は自分たちで守るというものを、どうやって世代を超えて伝えていくかということが課題です。

　市外・県外からの移住されてきた方たちや未加入の方たちを、防災の時も、どこでも課題 になっているようです。これからどうしていったらいいのか。まずはゴミとか、災害というこのマストの部分、なくすことのできない部分を確認して、お話すればいいのではないかということがあります。また、事業の見直しということです。大きく言って、コロナ禍の中で事業が中止になったけれど、コロナ禍が開けて、色々と事業や行事が復活していますが、復活する必要があるのか、大事なことは続けていいんだけれども、今までと同じ形で続ける事が本当に良いかというところ。事業の見直しや役員の軽減負担ということにもつながるのではないでしょうか。

　簡単にまとめさせていただきました。以上です。

**グループ6**

　6グループは、区に未加入の方がおられるということと、役員の選出について非常に、困っているということ。また、隣組の関係をもっと強くしたいということ。福祉活動について関連するものが出ました。

　その中で1番多いのは役員の選出ということです。それと福祉の活動の方と関連してきます。組織がいくつも分かれているので、それに対応する方を選出しなければならないということがあります。組織が多すぎるので、役員の選出が難しくなるということが1番の問題だと思います。もっと、組織をスリムにして役員の皆さんの負担を減らすことが、大事じゃないかということです。すいません。あの、簡単ですが以上です。

**グループ7**

　発表させていただきます。出たことは、住民と防災、災害、自治組織のあり方、役員の成り手不足という中で、ほとんど皆さんと一緒のような考えです。

 　1つは災害が起きた時の対応が自治組織に入ってもらうのに一番役に立つのではないかと思います。たまたま防災士の方も1人いて、グループのメンバーは、8人中5人が移住者でした。そんな関係で、人では言ったんですけどね。そんな感じで、色々なんか分かってない人が役になっちゃったりしているということもあったようです。

　役員の成り手についてはマニュアル化して、役員の決め方を（全体で統一して）決めておいて欲しいということがありました。

　それから防災士の関係で自治組織とはあまり関係ありませんが、防災士が今、駒ヶ根市に50人近くいるんです。だからその会を作るということを約束しました。危機管理課に言って作らせてもらいたいと思います。以上です。

**グループ8**

　区長経験者や市会議員の方など多彩な9人のメンバーでした。1番発言の少なかった私に発表の責がまわってきました。

　まず最初に皆様から出た意見は、このグループは何を討論して、どんな方向の意見を出すグループなのか。これが共通した疑問点でした。しかし時間が過ぎると共に出てきた意見は、この冒頭あった自治会フォーラムの自治会の在り方検討会の資料にございます。第1回から第3回で議論して、多くの方から問題点として出されました。役員の成り手がないだとか任務が多すぎという話が、入会するメリットの理解に苦しむというような話で、なんと70%未満の自治会組織率になってるのに浮まっております。そういった問題が新たにまた提示されたというのが実情です。そんな状況を見てみますと、新たに方向転換をして議論の先を変えてしまったというのが、今日、説明のあった全体の方向性だと理解をしました。出てきた意見は元の問題点でした。ということは、一般市民の方が問題意識を持って解決して欲しいと言われたことを先送りしてきているのではないかという意見に集約しました。

　従って私達の今後の事務局へのお願いは、このフォーラムでグループディスカッションする時のテーマは「具体的に何をテーマにして、どういう具体策を、どういう日程で、どこが担当して、どんな方法でやったら実現できるのか」というような方向で議論すべきではないかということでした。皆様いかがでしょうか?そうしないと、いくらこういう会を重ねたとしても、過去に出てきた意見の要望ではなく、要望の繰り返しに終わってこのような会を過去に何回も検討してきましたということのみが実績として語られる。こんなことでは自治会の改革はできないのではないかという意見が大半を占めました。ここに書いてある項目にも入っていますので、いちいち読み上げませんけれども、事務局には、よくこの辺を読んで精査をしていただいて普通に活かせるところは、生かしていただければ幸いである。こう考えた次第でございます。ちょっと時間がオーバーしてすいませんでした。 [拍手]

**グループ9**

　グループ9では、今まで出ましたグループの皆さんと同じような意見がやはり出ました。

　自治会の役員の問題、業務の問題、構成の問題がでました。中で自治組合には入るのだけれど区には入りたくないとか、そういう方がおられるそうです。

　やはり透明性と言うか、自治会でやっていることのメリット等を明確にしないと入会者の方も不安という部分があると感じました。

　業務の内容についてですが、自治組織は住民が集まった団体ですが、どうしても行政との繋がりは深いと思います。行政との関わりが高い関係上、行政からの依頼も多いです。

　是非今の行政の自治組織への業務内容の見直し等をいただいて、やめる事ができることはやめてもらい、募金のあり方についても、過去に問題になっておるんですけれども結論が出たということを聞いていません。

　このあり方検討会についても、あり方をどう検討するかだけではなくて、どうするか結論を出していただきたいという意見がありました。

　自治組織そのものは防災や見守り等で、地域にとっては重要な組織だと思います。こういったことも考えて、我々も自治組合等の組織を頑張っていきたいと思います。以上です。

**グループ10**

　我々のところでは、初めに出た意見で色々話しました。先ほど8番のところで話された方と同じように、やはりタイムラインというのを見ないといけないと思います。

　今私は65歳ですけど、あと10年経ったら75歳です。ここのフォーラムに来られている方も、パッと見るとそれなりの年齢ばかりですので、あと10年経ったら、こんなとろには来られない方も結構いると思います。こういったフォーラムが今回8回目にも関わらず、結論が出ていないのは、はっきり言ってあまり意味ないと思います。

　いただいた資料を見ると、初めの頃は同じような色々な問題が出て、それについての議論があった様です。途中から人との繋がりという風な形で、ある程度、このフォーラムとしてはまとまった内容になっています。

　しかし、我々参加者は実際に自治組合の中で仕事をしていて、今現在、色々な問題に直面してるわけですね。そんなに悠長な時間はないはずなんです。

　そういう風に考えると、結論を出してどうしていくか。ここで出ないのなら違うことを考えてやっていかないといけない。

　早い話が今出ている問題は、我々のところにも色々出ましたが、簡単に紹介しますが、そういう課題を解決していくことが第1だろうと思います。別に人との繋がりを軽視するつもりはありませんが、そこにこだわって、アクションができないのなら、意味がないと思います。

　グループ発表でも、先ほどからいろんなものが出てきました。その課題に対して、どういうアイデアがあるかとか、その課題でやれるものから、やれるところは進めていく。そうしていかないと、なかなか解決にいかないだろうなと思います。

　大きなのは、区長や自治組合長の負担が、かなりある事です。これには、先ほどから出ている事務局というアイデアもあります。今年終わって来年また2期連続とは思っていないですが、確かに1年で終わってしまうのは、慣れた頃には終わってしまうので、本当は問題だという事はあります。

　それから成り手がいないという問題は、なおのこと事務局体制とか場合によっては、労働組合用語の専従職員のような人材を何年かお願いするようなことも考えたほうがいいと思います。

　今のままだと、役員をやってくれる人もなかなかいないと思います。

　市からの依頼事項に対する区からの改善要望が出ているとお聞きしています。結果的には、それを引き受けるので、各地区の自治会が全部それを、自治会を使って配布しているというのが実情です。

　配布物と回覧物というのは非常に多いので、これを、SNSを使う方法があります。

　私の住んでいる大徳原では、アンケートを取りました。アンケートの回収率が半分ぐらいでした。その内のかなりの高齢者が、携帯を持っていて、できない世帯は2、3件でした。ほとんどみんなLINEは使っているんです。

　それでやった場合の問題はもちろんあります。使える人たちでSNSを使って、できない人に対は別途紙で回すとか、進められるものを進めなければいけない。

　見ていて思うのは、市からの配布依頼は多いですが、めちゃくちゃに多い訳ではないということです。多いのは、病院関係とか警察署とか他の団体からのものが非常に多いです。そういう事は、自治会長になってよく分かりました。

　それぞれの団体は、作った時はそれなりに必要だったのでしょうけれど、これから先を考えて、それらの団体が本当に必要なのかと。

　なくせと言ってるわけじゃなく、自治会の人数に対して団体数が多いということは、もう少しまとめられないのかということも今後考えていかないといけません。これだけしか人がいないのに団体はこれだけあって、それぞれにこういう風にいるというのを。どう考えてもこれがおかしいんじゃないかというのもあります。

　大きな依頼で問題になったのが国勢調査と民生委員になります。国勢調査に関しては、私のところではありませんけども、実際に グループの中で区長さんと副区長さんが引き受けてやってるとか、実際にはそういうものなんです。

　民生児童委員は、私のとこも困って、直接にいたり、いろんなことやってます。これについては、私の区は、今日、区長はいらっしゃってなくて、副区長はいらっしゃってます。組織率っていうのはあって、全体で7割ぐらいと言っていましたが、私のところは 6割ぐらいです。区として。私 の自治会も同じようなものです。その6割ぐらいしかいないところ、会社で言えば組合みたいなものです。そこに全部丸投げすることで、国勢調査とか民生児童委員を常に出せるわけではありません。みんな高齢ということもあります。これという人は既に経験してしまっています。だからそこに全部出すんですかと。悪い言い方をすると私の耳にも入ってますけど自治組合に入ってお金を払って組合になりながらこういう役割をやってくれと任されるぐらいだったらやめた方がいいというのもあります。

　それから組合費の値段も、結構区と自治会と二重になってます。地区によって違うんですけれども、やはりそれなりの金額です。今日は総務の方もますが、悪い方したことあるんですけど、私は他所から来た、よそものなんですね。12年前に移り住んで来て、他所と比べるとやっぱり高いんです。この二重取りははっきり言うと、体のいい住民税だろうという風に言ったことがあるぐらいです。

　やはりそういう中で昨年もそうだったようなんです。うちの自治会で言えば、年金生活者で払えないからという理由で自治会を抜けていく方も結構多いんです。それなりにこれまで務めてこられた方がぬけていくというのは非常にもったいない話です。そこに関してお金なんて簡単に決められませんけど、もうちょっと下げてあげるとか、そういうことも考えないといけないのかもしれないなという風には思っています。

　もう1つ大きな問題は集金ですね。これは我々自分たちの自治会費や、それに限らず日本中みんなそうですけど、集金をする人、組長さんなり、私のところは班長さんが集金袋を持って集金に行きます。いないとまた戻ってくる。住宅が集まってるところいいんですけど、私のところは挟いので大徳原なので、元農場で非常に遠いと、ご老人が集金袋を持って歩く、または車で行く。いないから夜もいく。こんなことをずっとやっています。だからこれを本当はなんとかしたいと思っています。

　これとは別に、赤十字だ、緑の募金だ、赤穂学校同窓会だと何でもかんでも来るんです。自分たちのものならまだしも、あまりにもイージーすぎるだろうと思います。自分たちの団体で何とかしろよと私は思っています。

　こういった集金に関してもこれからどうしていくのがいいのか。いくつかアイデアありました。そういったものを共有し、うちの自治会だったらやってみようとか、バラバラでもいいので、試行錯誤しないと、自治会フォーラムを続けてもなかなかいいものにはならないと思います。我々の本日の結論になりました。以上になります。

**その他の発言：下嶋さん**

　私は東京から来て、11年です。

　東京には自治会がありません。

　ところが、地方にはある。

　事務局の方にお願いしたいのは、東京だって災害はあるわけですよね。でも自治会はありません。自治会がなくても成り立っている。

　皆さんは自治会の役員です。それと今、駒ヶ根市では3割の方がもう自治会には入ってないと聞いております。今後4割5割と入らない人が増えていくだろうと思います。

　是非ね、駒ヶ根市報で、東京になくて駒ヶ根市に何が何でも自治会組織が必要なんだというコメントを出して欲しいと思います。研究した成果を出して欲しいです。それに基づいて多くの皆さんがやっぱり駒ヶ根市にも自治会がいるんだということならば、いかに改革をして、いい組織にしてくかっていうことだと思います。

　はっきり言うと私はいらないと思ってるわけです。だから市として、必要なら自治会が必要なんだということを住民に訴えかけてもらいたい。例えば3割4 割の組合員が抜けてても6割5 割の人であっても、やりとおすんだという、我々を説得する資料を作っていただきたいと思います。

**講評：白戸洋教授**

　今の最後の話ですが、自治会とか町会とかで、僕も役員をやりました。何のために自治会があるのかということをお話になったと思います。多分そこがまず大事なところだと思います。

　自治会にいるとですね、色々な役や、いろんな仕事が来てとても忙しいです。それに追われていると、本当はやらなければいけないことができてないのかもしれない。

　検討会の第1回から3回に出てきた改革は、まさに時間を置かず待ったなしでやらなければいけないというのが1つ。

　2つ目は今おっしゃったことです。色々な方が色々な地域で、それぞれ抱えている問題があった時に、なかなかその区や町会の中で、共通に何をしたらいいかという事をきちんとみんなで考える仕組みが持てなかったのではないかと思います。

　そういうところを、各地域でやれるように、具体的に、これも1つ具体的にやらなければいけない時期に来てるのでないかなと思います。先ほどのお話ましたから検討会自体はですね、多分大体これで、方向性が出てきているので、次からは具体的に、今日ご意見が出たことをどうしていくかという時期に来ていると思いました。いずれにしても、3割4割の方が入ってない。これはもう駒ヶ根市だけではなくて、日本中どこでもそうです。

　逆に災害があった地域では、新たに自治会みたいなものを作ろうというような動きもあります。それから渋谷では渋谷大学といって、若い人たちが最近のいろんなハロウィンなどの問題がある中、自治会みたいなものを作ろうという動きもあります。いろんな人がいろんなことを考えています。

　ただ大事なことは、自分たちの地域をこれからどうしたいのかで、そこに自分がどう関わるのかということです。

　もう1つは、そういうことをやりたいのにやれないのならば、やれるような仕組みにしていく。必要ないものはやめていくということ。そういうような考え方でやらないと、なかなか前には進まないと思います。

　意識しただけでは、行動はなかなか変わらないと思うんですね。だから確かにおっしゃった通り、議論をしてきて、 議論は大体もうこの辺にして、行動する事が意識を変えていくんですよね。行動してみて、 これがいいや、これでいいやと、取り組む時期にそろそろなってきたのだと思いました。

　これだけ色々な方が、この場で時間を使って議論をしていただくというのは、駒ヶ根だからできるのかもしれません。なかなかこういう会を開催しても、議論することさえできない地域はたくさんあります。

　高齢化の問題があったり、都会などではできないところもあります。そういう意味では、今日の議論をいかに、生かして先に進めるかが大事だと思いました。

**期待の表明：伊藤祐三市長**

　ご参加いただきまして御礼を申し上げます。様々なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。

　何よりもまずこうして多くの方が1つの話題について、自分のこととして考えていただいた、これが本当に素晴らしいことだと感じております。

　この自治会フォーラムですが、これから、自治組織の在り方検討会の皆さんで、年度内を目途に、さらに今日の議論を踏まえまして、検討を進めていただいて、提言の形でまとめていただく予定にしております。

　そしてこの提言も、それぞれの自治会や地域の皆さんにお渡しをし、それを基に今度は、それぞれの地元にあったやり方を、皆さんで考えていただくということになろうかと思います。

　自治組織というのは、やはり皆さんの手で、作っていくものでございますし、皆さんの地域にあった、歴史にあった、伝統にあったものでなければ、結局のところ定着はしないということであります。

　今までのやり方が違うのであれば皆さんで変えていく。そして、市と共もに一緒により良いまちに向かって進めていくということになると思います。もし、そこで寿命が尽きるならば、その自治組織は、歴史を閉じることになると思います。しかし、さらに必要だと、新しい形に変えていくということであれば、さらに次の歴史を刻んでいく。そういうことになります。そういう風に、皆さんとこれからも一緒に考え続けていこうと思っております。

　自治組織の在り方というのは、決して誰かに、強制されて、こうだと決められるものではありませんし、共に考えていくものだと思っています。先ほど白戸先生からもございました通り、今回の自治会フォーラムは意見交換会として、初めて開催しました。皆さんの参加をいただいて本当に色々なご意見が出てきたと思います。 これを基に検討会では提言をいただくわけです。市としましては、こうしたものを行いまして皆さんと一緒にですね、 次のステップへ進んでいきたいと考えております。いろんなモデル事業あるいは、実証実験等々踏まえて、それぞれの地域にあった、それぞれの自治組織のあり方を皆さんと一緒に作ってまいりたいと思います。これだという結論が1つに決まるわけではありません。それぞれの地域にそれぞれの結論があるのだろうと思います。引き続き知恵を出し合っていただくことが、より良い自治組織を作っていただく事に必ずつながると確信しております。

　本当に長時間にわたり、ご議論いただきましてありがとうございました。引き続き皆さんと共に、自治組織について考えてまいりたいと思います。どうぞ今後ともよろしくお願いします。本日はありがとうございました。